

当院において令和3年6月24日に医療事故事案が発生し、患者さまが逝去されました。病院運営の透明性を高めること及び他の医療機関の安全管理にとって有用となることを目的とし、この事案を公表します。なお、患者さま御遺族と和解が成立し事故の公表に同意を得たものです。

## 1 患者

40歳代男性

## 2 事故概要

左腎細胞癌の診断をされた患者さまについて、令和3年6月24日にロボット支援下による左腎部分切除術を開始しましたが、腎門部血管周囲のリンパ組織の癒着が強く、進行癌の可能性も考えられたため、ロボット支援下による左腎部分切除は断念し、腹腔鏡下による左腎摘出術へ移行しました。その後、左腎門部血管の処理の際、誤って腹腔動脈及び上腸間膜動脈を切離し、動脈性の出血をきたしました。出血後、開腹手術での止血操作を行い、上腸間膜動脈と腸骨動脈バイパス手術を行いました。術中に不可逆性の出血性ショックとなり、当日中に逝去されました。

亡くなられた患者さまへ心よりお悔やみ申し上げるとともに、患者さま並びに御遺族へ深くお詫び申し上げます。再発防止策として、術者を含めた手術チームの再トレーニングを行い、また、鏡視下手術における重大な事故を防ぐために、緊急時におけるスタッフ間の情報共有や連携を再確認し、常に迅速に対応できるようシミュレーショントレーニングを継続して行っております。

今後、二度とこのような事故を起こさないよう再発防止に努め、適切な医療を提供できるよう、全職員をあげて取り組んでまいります。

病院長